妙国寺寺報

平成十九年七月発行　第五号

雨

渡邊　義専

空梅雨かな？と思っていた季節も七月に入り、急激に今までの鬱積を振り払うかのように強い雨が降り始めました。雨は渇水の場所や、農作物を育てる場所では大変ありがたがられる一方、雨で濡れてしまったり、どこかへ出かけるはずの楽しい予定が中止になったり、また、災害が引き起こされたり・・・。雨は時と場合によって様々な顔を見せます。

法華経の中にそんな「雨」が大きな木にも小さな木々の苗木にも、雑草にもわけへだてなくふりそそぐ様子を仏様の慈悲に例えた「三草二木」の喩えのお話があります。

『何日も日照りが続き、乾ききった大地に、ついに雨が降り注いだ。高い山低い山、深い谷間、ひっそりと生い茂っている色々な雑草、大きな樹、小さな木々や苗木、作物、あらゆる草や木が雨のめぐみに潤い、歓声をあげました。大きな木は、枝をいっぱいに広げたり、小さな木は葉と言う葉をつきだして、全身を浴びせるように、雑草はいくつも身体を寄せ合ったり・・・。そんな大中小の根も茎も枝も葉も、わけ隔てなく、それに応じて、雨は降り続けました。「私は、大きな木にも小さな木にも、大中小の草にも、なんの分け隔ても無く降り注ぐのだ、大きな木も小さな木も、大きな草も中くらいの草も小さな草も、みんなその大きさや種類に応じ、自分の個性に従って、うんと伸びていってほしい、成長してほしいのだ、仏様の慈悲の心は、等しく、皆の心を潤す。豊かに実をみのらせるように。」雨はそういいながら、空から次々と舞い降りてきました。』

ここでいう雨とは、分け隔て無くあらゆるものを潤す仏の知恵と慈悲の心です、そして、大中小の草木は、そう、もうおわかりですね、それぞれ違った個性や能力を備えている私たちのことです。

雨は何があろうと、平等に変わることなく全てを潤します。しかし、そんな雨に、私たちの受け取り方は時と場合に応じて、ありがたく思ったり、迷惑に思ったりコロコロと変化してしまうものです。ちょっと視点を変えて、雨は降るものだからと、心落ち着かせて、ありのままを、ありのままに受け入れて暮らすのも悪くないかもしれません。

妙国寺創立百周年に向けて

渡邊　義俊

当山妙国寺は明治四十二年、開基の塩田義山上人によって万田西の峯に教会所が設立されました。それ以来、妙国寺は戦火にみまわれたり後継者の問題で空白の時期があり檀家の激減の時代があったりで、険しい歴史がありました。しかしながら皆様の厚い信心と丹精のお陰で、昔の妙国寺をなんとか再興する事が出来ました。そしていよいよ二年後「平成二十一年」には妙国寺創立百周年という有り難い節目を迎える事になります。

当山妙国寺に於きまして、更に未来に向けてお題目の道場として、又ご先祖の霊場として、揺るぎ無いお寺にしていかなければなりません。その為に総代世話人の皆様と協議を重ねて、新たに寺院の機能を兼ね備えた庫裡の建設を発願致したのであります。庫裡建設の趣意書を配布致し、すでに壇信徒の皆様のご協力を頂いている所で在ります。二年後には寺観を一新して妙国寺創立百周年記念大祭が執行出来れば幸いに存ずる所であります。

宗教法人日蓮宗「妙国寺」沿革

一、明治四十二年、万田西の峯に教会所開設

一、大正十年、万田東小次郎丸（現在地）に本堂・庫裡建立

一、昭和十八年三月十八日、妙国寺開基正明院日示上人（塩田義山）遷化六十八歳

一、昭和十九年一月十七日、寺号を受け大乗山妙国寺とす

一、昭和二十年八月、戦災により本堂・庫裡消失す

一、昭和二十一年仮庫裡建設

一、昭和二十七年仮本堂建設

一、昭和三十八年十一月十日、妙国寺第二世辰光院日龍上人（塩田義力）遷化五十二歳

一、昭和四十四年九月、渡邊義俊上人妙国寺第四世継承

一、昭和四十七年、庫裡建設

一、昭和五十五年、本堂・客殿建設

一、平成三年、境内整備・駐車場・歴代墓完成